2001

（平成13年）

理事長 山本　恒久

1月

京都会議
第1回定時総会・例会「正会員証授与式」「21世紀における青年会議所のあり方とは～市民とともにまちづくり～」（本町会館）

2月

例会「環境問題？わたしたちにできることって？」（本町会館）

3月

例会「教育地域の自立　JCの役割」（本町会館）

4月

松山春まつり
第31回愛媛ブロック会員大会（今治）
公式訪問例会「ITによる中小企業の活性化」（本町会館）
ITセミナー
四国地区「ボランティアを通した地球益事業」（ラオス）
日本JC創立50周年記念事業（東京）

5月

愛媛ブロックスポーツ交流大会（松山）
公開例会「第4回「俳句甲子園」成功に向けて～そして明日へ・・・」（コミュニティセンター）
第20回全国城下町シンポジウム山形大会
ゴミゼロフェスタ2001

6月

第15回わんぱく相撲まつやま場所
四国地区フォーラム（高松）
例会「聖域なき松山まつりの改革」（コミュニティセンター）

7月

家族例会（南海放送サンパーク）
サマーコンファレンス2001
坊っちゃん大使第12号　西村　英俊氏　任命

8月

松山JC創立49周年記念式典
松山まつり
第4回俳句甲子園
例会「21世紀まちづくりビジョンを考える」・第1回臨時総会（コミュニティセンター）

9月

第18回まつやま市民シンポジウム
高知県西部地区豪雨災害復旧ボランティア
愛媛ブロック協議会人間力開発委員会サバイバル研修（大洲）
例会「もうひとつの気づき！」（コミュニティセンター）
エイドデグローイングネット開設

10月

第50回日本JC全員会員大会（大阪）
例会「俳句甲子園考察」「まちの産業活性化における企業の役割／松山JCの進む道」（コミュニティセンター）
GSDF・YEG・JCソフトボール交流大会

11月

例会「50代　理事長　三原英人」・第2回定時総会（本町会館）

12月

例会「卒業式」・卒業生送別懇親会（本町会館）
2010年まつやま　まちづくりビジョン中期運動指針及びアクションプラン策定
第9回松山ライトアップ事業

▲1月例会

▲2月例会（入会式）

▲3月例会

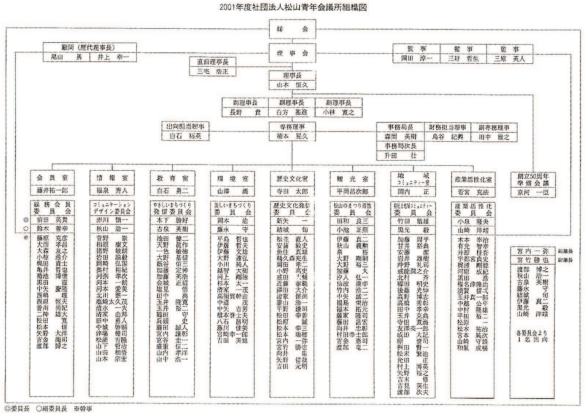
▲高知県西部豪雨災害ボランティア活動

2001年　松山市の動き

1月　「子規100年祭in松山」開催
3月　芸予地震
8月　姉妹都市提携20周年を記念し、代表国がサクラメント市を訪問
10月　坊っちゃん列車、半世紀ぶりに復活

「主体的市民として変革！
まちを、JCを、そして自らを」～実践とパートナーシップから

▲愛媛ブロックスポーツ交流大会



▲愛媛ブロック会員大会でスポーツ交流大会をPRするメンバー

▲9月例会

▲第18回まつやま市民シンポジウム

▲6月例会

▲エイドデグローイングネット開設

▲（社）松山青年会議所創立49周年記念式典

▲ゴミゼロフェスタ2001

社団法人松山青年会議所2001年度理事長所信

社団法人松山青年会議所
山本　恒久

主体的市民として変革！まちを、JCを、そして自らを
～実装とパートナーシップ～

○はじめに

「失われた10年」といわれる1990年代は、 世界が大きく変化し、そのスピー ドも加速している中で、自分の未来像の設計ができないままに、 過去の清算に追われたというのが実情です。「責任回避」「横並び」「問題先送り」「もたれ合い」などの日本型行動様式から脱却できず、政府も企業も個人もシステムの大幅な見直 しをためらい、 改革のテンポを遅らしてきました。そうしている内に、 社会では信じられないような深刻で複雑な問題が次々と発生 し、ついには、 人の価値体系や倫理規範までも崩壊するというよう な危機的状況を身近に感じるまでになりました。

この現実に目を背けたり、 世の中をただ傍観者的に批評したり、不安や泣き言ばかり訴えてみても、何の解決にもなりません。 今 こそ、 我々が21世紀を迎えるに当たり、新しい日本、 まつやま、 JC、 そして自らのあり方を真剣に考えることが必要ではないで しょうか。

もう既に近年では、1995年の阪神大震災の際、 救援ボランティアが駆けつけて、 自ら行動を起こしてから、 市民の自発的な活動が高まりを見せ、1998年にNPO法が成立し、 まちにも 自ら変化しなければならないという意識を持ち始めた市民が増え、 様々な奉仕活動やまちづくり運動が目に付くようになってきています。

○2001年度基本理念について

日本 JC が発表した21世紀初頭の10年を見据えた2000年代運動方針には、大きく2つのキーワードが盛り込まれています。それは、「個と公の調和」「活力と知力」です。

「個と公の調和」とは、昨今の自己中心的な価値観が横行する中で、自らと地域や日本、世界など周囲との関係を見つめ直し、自らの存在意義を考え、人として生きることの意味を根本的に問うことの大切さを表します。「活力と知力」とは、安全、安定、平等、規律型の社会から、競争と自己責任をベースにした自律型の挑戦的な社会へと移行する中で、自らが発想力、情報力、戦略性、魅力、知恵、生きる力などをもって将来を創造していけるように成 長することの大切さを表します。

私が、スローガンで用いた 「主体的市民」とは、 我々JCメンバー自らが、まさにこのような２つのキーワードを兼ね備えた人間像を目指していかねばならないという強い意志を表した言葉です。

松山JCは、創立50周年という大きな節目を控え、本年度はまず、過去に積み重ねてきた足跡、財産をむだにせず、いかに今後の活動につなげていくかを考えていきます。またJCの一つ一つの活動の目的や根本的な考え方を確認し、JCの培ってきた素晴らしい力やネットワークを再認識した

上で、新しい時代に対応できるよう、発想の転換を図り、メンバー自らの知恵やアイデアを十分に発揮し、次世代のJCの発展へと繋げていけるよう「主体的市民」として変革していきます。

○2001年度全体方針について

まつやま市民もJCメンバーの皆も、「われわれの生活基盤、経済基盤であるまつやまが、自慢のできる、誇りを持てる、夢や活力のあるまちであってほしい」という願望を必ず共有していると思います。この皆の共通の願望 実現に向けて、松山 JC に行動力、創造力、若さ、情熱、希望に溢れた青年が集まり、自らが能動的に推進していく団体のメンバーとして、各々がまちづくりを考え、 実践していくことがJC活動の根幹です。

それを踏まえて、松山JCの2001年度全体方針として、「松山JCによる21世紀まつやままちづくりビジョンの策定」を掲げたいと思います。創立50周年を目前に、松山JCメンバー全員が共有できるビジョンを明確にすることが、今こそ必要だと思うからです。

そのためには、我々のまちづくり活動全てが決して一人よがりにならないように、「松山JCとまちづくり開発者とのパートナーシップを確立」、「松山JCと市民のパートナーシップを確立」の2点を重視して行動します。これは、JC活動において、常に行政、市民、まちづくり団体などとの連携を図り、共に学習し、地域の未来について語り合い、実践することが不可欠だからです。

具体的に、まちづくり関係者と、各会議への参加依頼や各種情報媒体の活用、訪問などを通して積極的に関わり合い、JCが諸団体のバックアップ的存在または、シンクタンク的存在になるこ と、そして、JCの事業運営に市民からのボランティア参加を広く呼びかけ、JCへの協力者、理解者を作っていくことが挙げられます。

○2001年度まちづくり事業について

現在のまつやまに必要なまちづくりの視点を、産業活性化、観光、歴史文化、環境、教育、 地域コミュニティーの6点に絞ります。各視点について、最初できるだけグローバルに現状を捉えた上で、まつやまの 地域資源を活かした独自性のあるまちづくりビジョンとアクションプランを策定し、JCの財産や力を活かしたJCならではの事業の 実践にトライしていきます。他にも、建築、土木、交通という視点もありますが、これらのハード的視点は、いかに市民が現有資産の生きた使い方をするかを一度立ち止まって考える時期であり、本年度はソフト面優先（人間重視）の年と位置づけます。

各視点に基づいたビジョンとアクションプランの策定については、スタッフ会議、委員会、例会で年間通して討議した上で、全体のビジョンとしてまとめ上げ、年内に提言書を完成させます。

○松山JCの自己改革について

JC内部の組織や情報伝達手段の効率化などの見直し、役割分担の明確化、メンバーの主体性を重んじた運営方法など、多様化、スピード化、デジタル化が進んでいる世の中に対応できる体制に変革していく必要があります。

そこでまず、1室1委員会制とし、委員会も8つに削減します。これは、情報伝達や意思決定のスピードアップ、スタッフとメンバーとの意志疎通による一体化、 1委員会当たりの人数と予算規模の

増大による新事業の創造、委員会運営の工夫による活性化などの効果が狙いです。

次に、松山JCの内向きの活動は、ロム全体を横断的につなぐ役割として重要ですが、できるだけ時間、労力、金を軽減して目的が達成できるようにしていきます。その中で、インターネット や iモードの普及など急速に進化する情報革命社会を見据えて、現在の松山JCからの情報発信や外部との情報交換などの手法を、より有効な手法へと見直していきます。また、JCがより活性化され、魅力的な組織になるようなシステムや内容を目指して、工夫し、見直しを図ります。

また、会議の運営を、会場、設営、進行、演出など、諸会議のリーダーが十分に事前準備した上で、①参加型②外部交流型③目的の明確化④連続型の4点が達成できるように工夫します。また、日本、四国地区、愛媛ブロック出向者連絡会を、地区への支援、各出向者の活動内容の情報交換と支援、ロムへのフィードバックを主目的に開催します。

その他、メンバー自身の意識の変革も忘れてはなりません。我々は、家族や会社などの多くの理解者から人間的成長を期待されています。また、メンバーがまちの市民から信頼され、協力していただける存在になるよう、自らを律していく必要があります。

○創立50周年記念事業について

創立50周年の式典や記念事業など、コンセプトや開催日時、場所、内容、予算などの企画、段取りを推進していくために、「創立50周年準備会議」を設立します。

○おわりに

松山JCのメンバーが将来、企業で地域でリーダーシップを発揮できるよう、自らの見識を広め、現状や時代の流れを敏感に判断する力、失敗を恐れない勇気と実践力、皆の目指す方向へ導くことのできる行動力を、活動を通して身につけていただける、JCであるべきだと思います。仕事あってのJCはもちろん、メンバーがJC活動の時間を作って活動している以上、将来、仕事に自分に生かせる魅力を感じさせるような運営を心がけます。